

第4回宇都宮市上下水道事業懇話会 議事録

■ 日 時

平成30年7月30日（月） 午後2時～

■ 会 場

宇都宮市上下水道局 5階大会議室

■ 出席者

- ・ 委 員：太田正委員，岡田榮委員，郷間いし委員，
坂本英典委員，櫻井誠委員，三宅徹治委員，
宮嶋雅子委員，室恵子委員（50音順）
- ・ 局 側：上下水道事業管理者，経営担当次長，技術担当次長，経営企画課長，
経営担当主幹，企業総務課長，サービスセンター所長，
工事受付センター所長，水道管理課長，水道建設課長，
下水道管理課長，下水道建設課長，生活排水課長，
技術監理室長，事務局職員

■ 傍聴者数

2名（いずれも記者）

■ 会議経過

- 1 開 会
- 2 懇 話

（1）第2次宇都宮市上下水道基本計画について
事務局より，資料に基づき説明。

F 委 員： 企業債の残高について，以前説明があった際には1,000億円を目標値としていたと記憶しているが今回の資料では740億円まで下がっている。これから企業債残高を極力減らしていくという意思表示に読み取れるが説明いただきたい。

事 務 局： 建設事業については，可能な限り長持ちはさせつつも必要なものを更新する，料金を今後10年間は上げないようにするといったように，リ

スクとパフォーマンス、財源のバランスを取るアセットマネジメントの考え方を踏まえ、収支を予測したところ、企業債残高は約3%ずつ減少し、平成34年度には740億円程度となる試算となった。

座長： 料金は引き上げず、必要な投資は行い、かつ企業債残高を減らしていくのは困難であるが、これを計画に盛り込んでおり評価したい。是非、頑張っていたきたい。

(2) 平成30年度上下水道局の経営方針について
事務局より、資料に基づき説明。

E 委員： 当年度純利益は平成29年度と比較して水道事業で減少し、下水道事業で増加している。増減理由と、主要事業の中で今年度から開始する等、特徴的なものがあれば説明いただきたい。

事務局： 水道事業の当年度純利益は資本的支出の増に伴う、支払消費税の増により減少している。下水道事業の当年度純利益は下水道使用料の増に伴い、増加している。

今年度の特徴的な事業としては、「生活排水汚泥一体処理事業」が挙げられる。本市最大の下水処理場である川田水再生センターのし尿や浄化槽汚泥を下水の汚泥と一体的に処理する事業を平成31年度末から開始するが、そのための受入施設を建設する工事である。建設費は2年間で約16億円を予定している。

「公共下水道雨水幹線の整備」について、整備計画の改定計画が今年度完成する予定であり、事業費は3年間で23億円を見込んでいる。

「第2次宇都宮市上下水道基本計画」にも「災害に強い上下水道の確立」として掲げているが、市街地の雨水対策に力を入れていきたいと考えている。今年度は整備計画の見直しを行い、重点区域を設定しながら、雨水整備計画を推進していきたい。

F 委員： 「白沢浄水場紫外線処理施設」について、他の浄水場に紫外線処理施設を整備する計画はあるか。

事務局： 白沢浄水場は地下水を水源としているが、大腸菌が検出された経緯があり、紫外線処理施設は白沢浄水場のみに整備を予定している。事業費

は平成29年度から平成31年度の3年間で約13億円である。

H 委員： 「災害に強い上下水道の確立」が大きな課題になっていると考える。耐震化や雨水の対策について、一定の基準に基づいて事業を行っているが、従前であれば100年に一回であった災害が、数年に一回生じるような状況にある中で、基準を見直す流れはあるのか伺う。

事務局： 雨水幹線の整備だと、雨水幹線で受け止めた雨水を、河川に流すことになるので、まず河川整備を行い、そこへ雨水を流すのが理想的だが、時間やコストの問題もあり貯留管等で対応しているのが現状である。現在、20mmの雨に対応できるよう整備しているが、将来的に河川が整備されれば、貯留管は流す役割が変わるため、減災対策として運用していきたい。

水道施設の耐震化について、最大震度はレベル2の阪神淡路大震災レベルの地震が発生しても機能を維持できる水準を想定して行っている。

F 委員： 基本施策「最良なサービスの提供」にある「ICT等を活用したサービスの向上」について上下水道管の配管データベース化を提案したい。昨年3月に閣議決定された「地理空間情報活用推進基本計画」の中に行政の効率化の観点から、社会インフラのデータベース化を推進する記載がある。阪神淡路大震災以降、国として活用し始めたが有効な手段であり、国の施策に応えられるよう、研究テーマとしていただきたい。

座長： 総務省の「未来都市戦略」は2040年を目指した自治体戦略に関する報告書だが、その中でもキーワードはICTであり、行政サービスの効率化、見える化、情報化が柱となっている。その点で社会インフラのデータベース化の重要性は大きいと考えるが見解を伺う。

事務局： 水道管、下水道管共にデータベース化は既に行っており、市民や業者のみなさんに必要な情報が提供できる仕組みが整っている。

昨年度から開始した、アセットマネジメントに係る取組で、管渠や処理場等、下水道施設データに、劣化状況や点検の情報を加えて管理している。笹子トンネルの事故も受け、点検や修繕に漏れのないよう、取り組んでいきたいと考えている。

事務局： 座長が御指摘の通り、いかに「見える化」するかということと、他のインフラと、どのように繋げていくかということは今後、研究していくべきと考える。

座長： 先ほど、防災対策の議題で、既存計画の見直しも含めた対応と併せて減災の論点もあった。東日本大震災以降、想定外という言葉は使えなくなったと言え、災害の規模や頻度、被害の大きさについて、これからはどのようなことが起きても対応していかなければならない。しかし全てのリスクを完璧に抑えるのは困難であり、特に事業費をかけてハード面の整備を行うのは難しい、という認識は共有されてきている。

そこで、災害の発生時に、被害を最小化する取組が必要となってくる。上下水道事業における他インフラとの差異は、災害時においても供給遮断は行わない点にあり、この点を最大の使命として事業を行っているため、災害時も供給されて当然と考えられがちである。

減災の考え方に基づき、災害発生時に、リスクが完全にはカバーしきれないことを念頭においてソフト面の対策を講じていく必要があると言える。ハード面とソフト面を有効に組み合わせて被害を最小化していく視点が重要であると考ええる。

経営方針の「I はじめに」で「将来の人口減少を見据え」と記載がある。従前は、都市整備が進んだ後に後追いで上下水道事業が整備を行う傾向が強かったが、この経営方針では都市整備を念頭に置いたメリハリあるインフラ整備を上下水道局側から積極的にアピールしており、重要性を感じる。もう少し詳細に説明いただきたい。

事務局： ご存知の通り、本市ではこれから新たな街づくりが進んでいく。特にネットワーク型コンパクトシティという考え方の中で今後50年、100年先を見据えた街づくりに向け、上下水道局はその牽引役としての役割を踏まえ、維持・更新を行っていかねばとの思いを強くしているところである。マスタープランの考え方も踏まえながら、局としても街のあり方を考えていきたい。

(3) 平成30年度広報広聴事業の新たな取組について
事務局より、資料に基づき説明。

・メディア等と連携した広報活動の取組について

F 委員： 宇都宮の水道水が「美味しい」ことを一つのキーとして市民の方々がそれを誇りに思えるような活動が良いと考えており、観光事業とのコラボレーションを提案したい。市内は街歩きが人気なので水道事業を観光資源の一つと位置付け、本市の水道の歴史や美味さ、特長を観光に組み込んで市内外の人達にアピールできないか。

事務局： 「水のフォトジェニックセミナー」という事業で、市内の希望者を募り、歴史的水道施設である今市浄水場で写真の撮影会と、宇都宮の水の歴史を学ぶツアーを実施した。今後も歴史を紐解く、観光的なニュアンスを取り入れ、広報活動に取り組んでいきたいと考えている。

B 委員： 公共施設に設置されている自動販売機に「おいしい水」が入っていることがある。泉水も自動販売機に設置してはどうか。

事務局： 泉水の入った自動販売機は、宇都宮城址公園に設置しており、昨年度は自動販売機が空になるほどの売り上げがあった。ペットボトルで水道水を紹介するという考え方もあるが、今後は蛇口からいかに水を飲んでいただくかという観点で、冷水器の設置や、公園におしゃれな蛇口を設置する等、水道水を身近にする取組も研究していきたい。

B 委員： 水には非常に興味を持っており、他都市へ行くとまず水道水を飲んでみるようにしている。宇都宮市も市独自の水道水をこれからも生産して行ってほしい。

事務局： 他都市から、宇都宮の水をポリタンクに詰めて帰る方もいると聞いている。美味しい宇都宮の水を直接飲んでいただく機会を増やしていければと考えている。

G 委員： 30～40年前から、宇都宮の水は美味しいと思って飲んでいた。

H 委員： アンケートの水道水を直接飲まない理由に、漠然とした理由はなく、ただ水質に不安があるという答えがあった。受水槽から赤ダニが発見されたという新聞記事があったが、こういったネガティブな記事が出た時に原因と対策を明確に、平常時には発生しないという情報提供を積み重ねることでこういったイメージは抑えられると考える。

事務局： 1mm程度の赤ダニが、一部の学校や市営住宅の受水槽に侵入した事案である。対応は受水槽の点検や注意喚起に終わってしまったため、御指摘の内容は今後盛り込んでいきたい。

- ・「宮の水サポーター」を核とした広聴体制の充実について

座長： 「宮の水サポーター」の現状を簡単に説明いただきたい。

事務局： 現在、登録数は31名、平成29年度は「第2次宇都宮市上下水道基本計画」の策定に向けた市民意識調査や、パブリックコメントへの協力依頼を行うなどの活動を行った。

「宮の水サポーター」は上下水道局の事業にご意見をいただく方々である。上下水道サマーセミナーに参加されたお子さんのご家族等に希望を募り、ご登録いただいている。8月2日に交流会を実施する予定であり、今後、サポーターの皆さんとの協働という形にしていけたらと考えている。

座長： 一方的な情報提供でなく、双方向での取組は良いことだと思う。

H 委員： 31名は少ないと思う。10倍、20倍に増やす取り組みが必要ではないか。

事務局： 御指摘の通りだが、31名は1年間での取組結果である。将来的には工事現場を見学いただいたり、お届けセミナーやイベントにご協力いただいたりするなど、活躍の幅を広げていきたい。

座長： この31名を一期生と考えれば、5年後には150名程度になる。サポーターは年を追って成長していき、局職員も触発されるので良い相乗効果が得られると思う。

・災害時の防災対策において求められる情報や手段について

E 委員： 最近では災害発生時に，SNSでの情報発信が有効であると言われて
いるため，今後検討を進めてほしい。また，新聞制作現場の立場から，
宇都宮市上下水道局からの情報発信は数も多く有効に機能していると認
識している。

事務局： SNSでの情報発信について，市と連携しながら，新たなメディアの
活用も含め検討していきたい。

H 委員： SNSに頼りすぎた場合，情報弱者と言われる人たちが取り残される
懸念があるため，従来通りの手段での情報発信もお願いしたい。

事務局： 広報車等，従来通りの手段も含め，検討していきたい。

座 長： 防災について，地域と連携した具体的な取組は行っているか。

事務局： お届けセミナー等で地域を訪問した際に防災に触れることはあるが，
防災をメインとした取組は少ない。今後，地域の方々を対象とした消防
局の会議で，上下水道局の職員が講師を務める予定がある。

F 委員： 上下水道局の広報紙には好感を抱いている。自治会の回覧では見たこ
とがないが，そのような対応は行っているか。

事務局： 広報紙は全戸配布を行っている。新聞折り込みと，新聞をとっていない方へは直接郵送している。

C 委員： 全戸配布されているのに，知人の中には広報紙に目を通さない人がい
る。内容はわかりやすく充実しているので，まずは目にとめてもらえる
ようなPRの仕方があればと思う。

事務局： 配布は主に新聞折り込みで行っており，広報紙もそのような方をター
ゲットに作成している。今後，10代～30代くらいの年齢層へのPR
方法を検討していきたい。ターゲットを絞り込んだPRが重要であると
考えている。

H 委員： 私の住んでいる地域では、上下水道局の広報紙は市の広報紙に折り込まれているので、市の広報紙の延長で目を通してている。新聞折り込みでは他の広告と一緒に廃棄されかねない。宇都宮市では市の広報紙も新聞折り込みで配布しているか。発行の頻度はどれくらいか。

事務局： 市の広報紙も新聞折り込みで配布しており、上下水道局の広報紙は年に4回発行している。

座長： より有効な配布方法を検討いただければと思う。

・全体を通して

D 委員： 上下水道事業は大変な仕事であると痛感している。これだけ災害が多いと、備えがしっかりしたところに住みたいと思う方は多いはずである。しっかりとした備えがあることを市内外の方々にもっと知っていただければ、市民の方は安心するし、市外の方は宇都宮市に住みたいと考える方のではないか。

美味しい水のPRについて、製造段階では美味しくても、蛇口をひねると受水槽や、給水管の問題で赤水が出てくる可能性もあるのでPRの方法は慎重に考えるべきと思う。

経営企画課長： 「第2次宇都宮市上下水道基本計画」に掲げた、災害に強い水道を広くPRできるようにしていきたい。

美味しい水のPRについて、市民のみなさんはトラブルのサポートも求めていると思うのでどのように応えていけるか考えていきたい。

3 その他

第5回懇話会開催日程 平成30年11月13日 14時～開催

4 閉会